

2017 世界女子ペタンク選手権大会報告書

期 日: 2017/11/9 ~ 11/12

開 催 地: 中国 浙江省 開化県

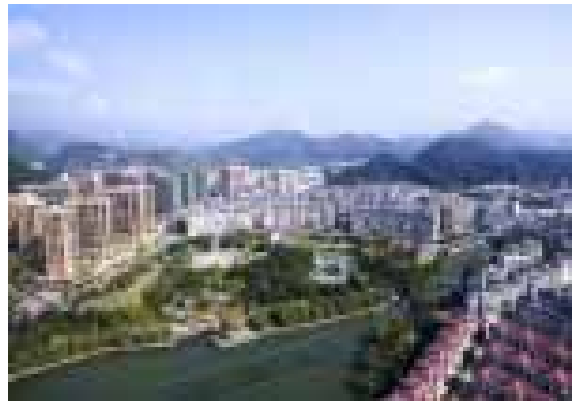
日本選手団: 監督 井上 まち子(埼玉県)

選手: 郷間 亜由美(主将・東京都)

木下 あけみ(岡山県)

石上 祥 子(兵庫県)

石上 陽 香(兵庫県)



参加国 : 41か国;42チーム

* アルジェリア・オーストラリア・エストニア・ロシア・ベルギー・ポーランド・ブルガリア・マダガスカル
マレーシア・モーリシャス・アメリカ・モロッコ・フランス・デンマーク・フィンランド・ドイツ・トルコ・タイ
チュニジア・ノルウェー・ラトビア・カナダ・オランダ・チェコ・ニューカレドニア・ウクライナ・スイス
スペイン・日本・台湾・スウェーデン・スコットランド・スロベキア・イタリア・イラン・シンガポール
インド・インドネシア・イギリス・中国2チーム (順不同)



11/9日13時から
中国現地の小学生
旗手によって笑顔
で会場へ入場行進
しました

* 観客の中を歩きながら、
これから始まる戦いに、
内心、勝利への意欲と
期待、少しの不安が胸
を膨らませ、ほど良い
緊張感が、日本選手に
生まれました。



会場の様子・・・2カ所、別々な特徴がありました。



* 中央テラン
アスファルトの上の盛土
深い場所と浅い場所とで
一定していない。
その上に小砂利が全体に
敷かれ、所々大きな石こ
ろがばらまかれていた。

* 別のテラン
メインテランから少し離
れていて8面作られていた
硬いアスファルトに砂交
じりの土が敷かれていて
ボールの走るテラン。

*2カ所のテランを行ったり来たり、テラン状況を把握するのも大変でした

試合方式: スイス方式・・・予選は5試合/対戦成績 2勝3敗/総合24位

予選1回戦 →

○日本 対 イラン (13対4)

・イランはまだペタンク歴がなく浅いチームでした。作戦も競技マナーも未熟でモチベーションは上がらなかったが初戦の選手の緊張をほぐす意味ではよかったです。個々調整やのテランに合う投球方の確認ができた。



予選2回戦 × 日本 対 スペイン (5対13)

・スペインはペタンクの歴史は古い。前年度のチャンピオンチームから若手に入れ替えての新チーム、個々のレベルも高い。中央から再度テランに移動し日本チームは投球に迷いがでた。僅差の攻防戦でしたが、後半相手の寄せの強さが上回り敗退。

予選3回戦 →

日本 対 ベルギー (13対8)

・ベルギー戦は同じサイドテラン。地面に慣れたこともあり、しっかりとよせ、追加点も取れる試合ができた。相手のミスを引き出し、自チームのミス無くして当然のことながら流れは日本から離れない。個々の役割を果たせた素晴らし勝利でした。





予選4回戦

×日本 対 ドイツ (9対13)

・ドイツも若手、20歳前後のチームフランスの強化合宿で見覚えのある力のある選手たちだった。ポワンテの正確さは目を引いた。ポワンテでリードされるとテールも面白いように当たりだす。投球確率が2分の1では勝てないことを痛感する。

予選5回戦

×日本 対 スウェーデン (0対13)

・3勝という予選通過へのラインが大きなプレッシャーとなって、なぜか迷いのあるペタンクになってしまった、大きく反省のあった試合。何をやっても上手く回らない、平静さを保つための精神力が今後の課題となった。

予選を終わり、3敗の試合に落胆していた矢先、大粒の雨が降り出し、避難する場所も無く、疲れが増した。しかし、そんな中で突然のコールがあり、24位でベスト16に残れるカドラージュ戦にギリギリで入った。気をしっかり取り直して挑戦者になれた事を皆で喜びました。

カドラージュ対戦表

(予選ベスト8は決勝トーナメントに上がりシードされるため)

○予選9位から24位までのチームで対戦し、勝者8チームが決勝トーナメントへ進出。



カドラージュ1回戦

○日本 対 スイス (13対12)

日も暮れた状態の中、スイスとの対戦が始まった。

相手に不足なく、テイルールは過去、テイル選手権で世界2位という記録を持っていた。取られて1点という気持ちを皆で確認して挑戦者として恥ずかしくない試合をする事を心に決めて臨んだ。投球に心迷わず、動揺せず普段の力を力みなく出せるように作戦は先手先手で指示を出した。テランの中でも、ベンチでも仲間が一体となって声を出して、話し、励ますという流れを保ち、崩れることなく最後まで続けた。選手たちの集中も凄かった。結果、1点差で勝利し、ベスト8を目指すことになりました。

8分の1ファイナル:決勝トーナメント

○日本 対 ドイツ (13対12)

ベスト16が決まり、決勝トーナメントに進んだ。照明があまり明るくない、中央テランで試合が行われた。予選で当たったドイツが相手でした。日本には勢いがあった、スイスが勝つだろうと誰もが思っていた試合に日本が勝利した、予想が大きく反しての結果でした。テランは少し砂利と凹凸が気になる、ポワンテは投球に癖がなく距離感の良い祥子さん、ミリューはズバンの正確さとラインの読み信頼のある木下さん、テイルはいさぎよく判断の早い郷間さんにとメンバーを決めた。初めて使うポジションと役割だが、今までの試合の記録データをしっかり分析してベストな状態で組んだ、皆が互いを認め、自分を信じ一投に集中して行けば勝てると信じた。結果、大勝利！！(細かな部分は選手も思い思いに、語っ

ているので・・・) 疲れ切った体に、涙溢れる思い、抱き合い喜びを噛み締めた選手、素晴らしかった。



4分の1ファイナル

×日本 対 カンボジア (13対3)



・カンボジアは常にベスト8入りの常連！また、テイルの世界チャンピオンがいる強豪国。ショートでもロングでも正確で確率の高いポワンテとテイル。

舞台に立ち、横を見るとテランには世界で一度はメダルを手に入れている国ばかり。隣にはタイ、フランスの憧れの選手！・・・同じ舞台で戦っている現実、実力は違いすぎる、はなから諦めているわけではない、負けたくない気持ちもあるが、今後の世界選手権とどう向き合い成長すれば良いか、対戦して見出すことが大事だと感じた。

テイル選手権: 郷間亜由美選手が出場

- ・初戦はリズムが良く集中もしていた。30点を得点し2回戦に進んだ。2回戦では21得点を取り敗退。結果、総合13位と検討しました。

優勝はフランス



- ・フランスの将来期待選手
キャロライン、22歳!



- ・日本にも指導にきたアンナ
氏もフランスの代表選手です。

監督として

今回、世界女子ペタンク選手権に監督として参加させていただき、私が感じたことは、参ヶ国の選手の若返りだった。というのも、パリでのオリンピックにペタンク競技が参入するという事が大きな前提としてあるからだと思います。各国はそこに焦点を当て、若者の育成に力を注いでいます。日本でも今回、若い選手の力が大きく結果を出しました。そして世界ペタンク界に日本としての向上を示せたと考えています。郷間さんを中心に木下選手や姉妹の石上両選手が気持ちを寄せて頑張ってくれたからこそです。人への優しさと互いの思いを感じ取り行動に移すといったことが自然にでき、支えの源になりました。本当に素晴らしい選手達でした。監督としての私の話も素直に聞き入れて、気持ちよくこなしてくれた皆さんに心から感謝しています。そして、ドイツやスイス戦は、諦めない強い気持ちが素晴らしかった、心から感動しました。沢山の応援の皆さんにもパワーを貰い頑張れたことも大きかった。最後に関わってくださいました方々すべての方に感謝して、これからの日本の選手の活躍を期待してやみません。本当にありがとうございました。

以前から腰と膝の怪我をしていたので、課題はまず痛みと付き合うことでした。毎日仕事帰りにリハビリ……。埼玉、諏訪のセレクションを通過し、個人で単身タイへ向い修行したり、タイの国際大会に出場したりと調整し、当日を迎えることになりました。

試合会場のテランは様々なタイプがありました。テランは3パターン会場は2か所で行われました。全体的には荒い砂に小砂利で深そうに見えましたが、しかし、1番下の層はアスファルトだったり、鉄板？みたいな所だったり、陸上競技場にあるゴムのようなものだったり、ポワンテをすると「カツーン!!」「ガシャ!!」「ポヨ〜ン#」と跳ねます。ポワンテするのはどの国も苦戦していましたが、テランとケンカしない投球を見極めポルテ、ドゥミポルテを各国の選手は投げ分けていました。テイルもテランの状況でかなり違いました。2日目からは雨が降り、テランの状況は変化、跳ねるプラス滑るが加わるという……。とにかくポワンテが大変でした。

(日本代表 初世界選手権 Best 8エピソード)

予選から強豪国との対戦、スペイン、スウェーデン、ベルギー、ドイツ。予選全てを終えて2勝3敗、負け越してネイションズへ進むかと思われましたが、スイス方式の為、ぎりぎりの24番目に入りカドラージュへ……。日本に少しの光が！ベスト16をかけスイスとの対戦になり、ここで勝てば……。と思い、皆気合が入りました。ポイントを取って取られ我慢したりと、とにかく皆集中……。スイスに勝ち突破。しかしベスト8をかけてはドイツが待ち構えていました。再びドイツと対戦です。スターティングメンバーはポワンテ木下さん、ミリュー石上陽香さん、テイル郷間、ゲームがスタートしなかなかポイントが取れず、途中監督が動く、石上陽香さんと石上祥子さんが交替、ポジションもスイッチしました。ポワンテ祥子さん、ミリュー木下さん、テイル郷間。ドイツは日本に12対6とリードし、あと1ポイントで勝利が見えていました。ここからJapanの怒濤の攻めのテイル、私も打つ。それでもドイツは厳しいところにポワンテしポイントを取りに来るし、打つものは打つ。私たちにプレッシャーをあたえてきます。お互いひかずの繰り返し、日本もとにかく集中1投1投確実に……。するとドイツも崩れ始めたが、ドイツも選手交代したりと持ち直す。

日本チームは11対12までポイントを伸ばしました。最終メーヌ、日本の集中は切れずドイツの最後のターンで木下さんがポワンテした、No1ボールに差してきた。そして日本チームの最後のターン。持ち球1球私のテイルになり、カラー!!2ポイント入りドイツに逆転。6対12から大逆転だったんです。みんなで抱き合い涙しました。皆かっこ良い!! 疲れました。私はどの試合もフルに出ていたもので、心配していた痛みがやってきてパフォーマンスの精度が落ち、キャプテンをしながらも情けないと心が折れかかり、駄目になりそうな私を監督やチームメイト達が支えてくれました。このメンバーと闘えたことを誇りに思います。

最後になりましたが、私達を応援してくださった方々に感謝申し上げます。「ありがとうございました。」

2度目の世界選手権余裕なし！

毎回のことだが、課題がたくさん！

ポワンテの技術、テールの技術で海外の選手とは差がありすぎる。

- ・テランにあったポワンテができない。
- ・追加点を取る時の失技。
- ・プセットが上手くできない。

もっと自分のスキルを上げてチームレベルアップをしていかないと世界では戦えないと感じた。その中でベスト8に残れたのは、監督の存在が大きかったと思います。選手の状態を即座に判断して起用し、みんなを引っ張ってってくれました。特にドイツ戦での選手交代、ポジションチェンジはズバリの中、作戦も的確で大逆転に繋がりました。まちこさんなしでは今回の成績はなかったと思います。監督、選手、応援団、チーム一丸となって勝ち取ったベスト8だと思います。大会へ参加するためにそして大会終了までに多くの方の尽力をいただき、そして温かく支えていただきました皆さんに心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

挑戦

石上 祥子

初めての国際大会。「挑戦」の二文字を目標に掲げ、中国へ向かった。世界選手権において、私には目的が2つあった。1つは、この大舞台で、今の自分のプレイはどこまで通用するのかを知ること。もう1つは、様々な試合を観戦し、これからの目標を立てることだった。

まず1つ目に、自分のプレイがどこまで通用するのだが、自分が想像していた程悪くはなかった。大事な場面でポワンテを決めることができたし、精神面では他の選手に劣っていないと確信することができた。しかし、様々なテランに瞬時に慣れることが苦手だと分かった。会場には2種類のテランがあったのだが、メイン会場はコンクリートの上に土や砂利を敷いたテラン。サブ会場はテニスコートのようなゴム状の地面に土や砂利が敷かれた。サブ会場のテランには苦戦し、チームにあまり貢献できなかった。他国の選手が軽々とビュットに寄せる姿を見て、歯痒さを感じた。どんなテランなのかを早く見極め、投球方法を改善する力が必要だと思った。そのためには、様々な投球方法を身につけておかなければならないと思った。

次に、多くの試合を観戦して感じたことは、素朴に「もっとペタンクが上手になりたい!」「もっと信頼される選手になりたい!」ということである。確実にポワンテやティールを決める選手、負けなためのあらゆる戦略、チームのカバーができる投球。素晴らしいプレイに圧倒されるばかりだった。世界選手権に参加することができて本当に良かったと思えた瞬間だった。

そこで、世界選手権を終えての私の目標は、もっとプレイにこだわることである。ポワンテはテランに合わせた投球を、ティールはダイレクトティールを、場面場面における緻密な戦略を。何事もこだわりをなくして成長はないと思う。まだまだ学ばなければならないことは多くあるが、しっかりと経験を積み、一段と成長して、この大舞台に再び戻りたい。

最後に、共に世界選手権を戦ったチームの仲間に感謝の気持ちを述べたい。ベスト8に入れたときのあの喜びは忘れません。試合に負けた時の悔しさは忘れません。価値ある時間を皆と共有できたことを誇りに思います。井上まち子監督、監督と選手という立場で一緒にできたこと、私の一生の思い出です。未熟な私でしたが、最後まで支え、励ましてくださり、私の良さを最大限に引き出してくださったことに感謝しています。ありがとうございました。そして、温かい声援をくださった日本ペタンクブル連盟の皆様、所属クラブの仲間、日本中のペタンク関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

世界女子ペタンク選手権大会に出場して

石上 陽香

今回、初めて世界選手権に出場し、改めてペタンクという競技の面白さや奥深さを知り、また素晴らしいチームメンバーに恵まれ、共に戦えたことに感謝している。

世界選手権大会に出場するにあたり、私は次の2つの目標を掲げ、挑んだ。それは、「普段通り落ち着いてプレーし、一球一球大事に投球すること」、「どんなに苦しい場面でもチームで協力して戦うこと」である。

最初はすごく不安でいっぱいだったが、井上まち子監督を始め、チームメンバーはいつも温かく接してくれた。そのおかげで私は試合に集中でき、楽しくプレーをすることができた。

今回の大会では、予選も含め全部で8試合を戦った。どの試合も心に残っているが、中でも一番忘れられない試合は決勝トーナメントで戦ったドイツ戦である。予選の結果は2勝3敗だったので、決勝トーナメントに上がるのはかなり厳しい状況であった。しかし、カドラージュ戦で何とかスイスに13-9で勝ち、決勝トーナメントへ進むことができた。次の試合に勝てばベスト8に入るとても大事な試合であった。対戦相手は予選で一度対戦したドイツ。私はミリューとして試合に出させてもらった。しかし、なぜか試合の途中から自分の思い通りに投球することができなくなり、チャンスに加点ができなかったり、守るべきボールも投げられず自分自身どうしたらいいのか分からなくなってしまった。その時点で大きく相手にリードされていた。思い通りに投球できなかった悔しさとチームへの申し訳なさでいっぱいのまま交代したが、気持ちをすぐ切り替え、ベンチから「最後の1点まで絶対諦めない。チーム全員で頑張る」という強い気持ちで必死に応援した。ドイツにあと1点入れられるとゲームセットというところまでできていたが、1点1点私たち日本チームは点数を入れていき、とうとう13-12で逆転勝ちをし、ベスト8に入ることができた。勝った瞬間、私たちはとても嬉しくて、監督やチームメンバー、応援してくれた方たちと抱き合った。ペタンクをしていてこんなに嬉しいことはこれまでなかった。

準々決勝のカンボジア戦では、負けてしまったが、初めての世界選手権をこのメンバーで出場できたことに大きな喜びを感じている。時には厳しく時には優しく、いつも私たちチームに的確な指示をしてくれ、支えてくれた井上監督。また、不安な私に声をかけてくれ励ましてくれた郷間キャプテン、木下選手、そして私の姉。現地にかけてくれ一生懸命応援してくれた方や日本で応援してくれた方々。ここまで来ることができたのも、たくさんの方々の支えや温かな声援のおかげだと感謝している。

今回、色んな国の選手と対戦したり、他の選手のプレーを見ることができ大変勉強になった。これからは、一つの投球フォームだけではなく、色々な投球ができるよう、また確実な投球ができるようさらに練習を積みたい。そして、また世界選手権に出場できる機会があれば、さらに上を目指して頑張りたい。